

1. 夏秋小ギク品種間の葉先枯れ症発生程度の差（情報）			
[要約]			
夏秋小ギク品種のうち、みのる、きらり、ほたる及びはじめは、 <u>電照・盆出し作型</u> において <u>葉先枯れ症</u> が発生しやすい。			
研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0277

[背景・ねらい]

葉先枯れ症の発生には品種間差があるとされている。このため、電照・盆出し作型において葉先枯れ症の発生の品種間差を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 葉先枯れ症の発生はみのるで最も多く、ほぼ 90%の茎に発生した。次いで発生が多かったのはきらり、ほたる及びはじめで、30～40%の茎に発生した（表 1）。
2. 葉先枯れ症は、ささやき、のぞみ及び翁丸にも発生したが、発生茎率は 10%以下であった（表 1）。
3. 葉先枯れ症は、千代、山水、小島、糸子、初穂、菊丸、赤魚、やよい、風鈴、美風、むすめ、くれない、彦丸、花エクボには発生しなかった（表 1）。

以上の結果、夏秋小ギク品種のうち、みのる、きらり、ほたる及びはじめは、電照・盆出し作型において葉先枯れ症が発生しやすい。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、土壌消毒直後の圃場という葉先枯れ症が発生しやすい条件で行われたものである。このため、気象及び土壌条件によっては葉先枯れ症の発生程度が異なるものと考えられる。
2. 葉先枯れ症が発生しやすい品種を栽培する場合には、窒素施用量を少なめにする、土壌の乾燥を防ぐなどの対策が必要である。
3. 葉先枯れ症の発生抑制にはカルシウム資材の葉面散布が有効と考えられるが、カルシウム資材の散布によってキクに障害が発生する場合があるので注意が必要である。なお、障害がなく、葉先枯れ症抑制効果が高いカルシウム資材については現在検討中である。

[具体的データ]

表1 品種ごとの葉先枯れ症発生程度

品種	葉先 枯れ症 発生率 (%)
千代	0
山水	0
小島	0
糸子	0
初穂	0
菊丸	0
赤魚	0
やよい	0
風鈴	0
美風	0
むすめ	0
くれない	0
彦丸	0
花エクボ	0
翁丸	3
のぞみ	6
ささやき	10
はじめ	32
ほたる	33
きらり	40
みのる	91

注) 4月27日定植、5月7日摘心。定植時から6月11日まで深夜6時間の暗期中断。7月4日調査(発生直後)。

[その他]

試験研究課題・事業名：盆・彼岸ピッタリ出荷による高付加価値小ギク生産のための精密開花調節法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成11～13年度

関連情報等：

1. 岡山県農業総合センター農業試験場研究報告第17号(1999)：キク葉先枯れ症(仮称)の発生
2. 園芸学会中四国支部研究発表要旨第37号(1998)：キクの葉先枯れ症に関する研究(第1報)発生の様相、同(第2報)カルシウム処理の影響
3. 平成9年度試験研究主要成果：キク「葉先枯れ症」の発生要因と防止対策